

四字熟語推理ゲーム 「漢獸」～珠ノ章～

各プレイヤーは天下統一を目指すとする国の国王です。各国には代々受け継がれている秘宝があり、勢力を拡大することによって最も多くの秘宝および漢獸を有した者が、天下統一を成し遂げることができます。

各国の秘宝は、四字熟語を元に召喚された「漢獸」により守られています。「漢獸」は、四字熟語の正体を見破られると魔力を失います。誰よりも多く「漢獸」の正体を見破り、秘宝獲得を目指しましょう。

環境

対象人数	2～5人
対象年齢	10歳以上
プレイ時間	約30～60分

内容物

漢獸カード(4種)	50枚
秘宝カード	5枚
行動カード	1枚
説明書(本紙)	1枚

漢獸カード

玄武



総画数
41画以上

青龍



総画数
40画～34画

白虎



総画数
33画～28画

朱雀



総画数
27画以下

ゲームの準備

- ◆ 漢獸カードを裏向きにしてよく混ぜ合わせます。
- ◆ 各プレイヤーに、秘宝カード1枚と裏向きの漢獸カード5枚をそれぞれ配布します。
- ◆ 各プレイヤーは配られた5枚の漢獸カードから、他のプレイヤーが四字熟語を推理するのが難しいと思う漢獸カードを2枚選び、裏向きにして手前に配置します。
- ◆ 各プレイヤーは2枚の漢獸カードのうち、最も推理が難しいと思う漢獸カードの下に秘宝カードを配置します(秘宝カードを守る漢獸カードを「守護漢獸」と呼びます)。
- ◆ スタートプレイヤーを決めて、行動カードを配置します。

ゲームの進行

- ◆ スタートプレイヤーから時計回りに行動ターンを進めます。
- ◆ 各プレイヤーは自分の行動ターンにそれぞれ1回だけ、次の行動ができます。

【行動1】

他のプレイヤーをひとり指定して、そのプレイヤーに四字熟語のヒントを要求する

→ 指定されたプレイヤーは、行動プレイヤーが要求したヒントについて回答します。要求されたヒントと回答は、全てのプレイヤーに共有されます。

【行動2】

他のプレイヤーが持つ漢獸カードを一つ指定して、その漢獸カードの四字熟語を推理する

→ 漢獸カードを指定されたプレイヤーは、行動プレイヤーが推理した四字熟語が合っているかどうか回答します。四字熟語が合っていた場合は、その漢獸カードを表にして行動プレイヤーの前に配置します。漢獸カードが守護漢獸の場合は、秘宝も一緒に行動プレイヤーの前に配置します。

於口而利於病忠言遂於行道不遠人人之爲道而遠人不可以爲道

- ◆ 行動が終わったら、行動カードを次のプレイヤーに渡して、行動ターンを終了します。
- ◆ 行動カードを渡されたプレイヤーは、自分の行動ターンを開始します。
- ◆ 全てのプレイヤーの行動ターンが終了したらラウンドを終了します。

ヒントの種類

行動プレイヤーは、指定したプレイヤーに対して次の中からヒントを選んで要求することができます。

- 1 1~4文字目いずれかの漢字の部首
- 2 1~4文字目いずれかの漢字の画数
- 3 四字熟語の総画数
- 4 ひらがなの総文字数
- 5 濁音、半濁音の総文字数
- 6 四字熟語に含まれる漢数字の和

【補足】行動ターンについて

- ◆ ヒントを要求されたプレイヤーは、残っている全ての漢獸カードについて、それぞれ同じヒントを回答しなければなりません。
- ◆ ヒントを要求したプレイヤーと、四字熟語を推理するプレイヤーは、一致していなくても構いません。
- ◆ 推理する四字熟語がどうしても思いつかない場合は、そのターンをパスしても構いませんが、推理は1ターンに1度しかできません。

【補足】スムーズなゲーム進行について

- ◆ 推理時間に規定はありませんが、プレイヤーの習熟度から適切な時間（例：1分間）を決めると、ゲームがスムーズに進みます。
- ◆ 参加するプレイヤーが多い場合は、ゲーム終盤になるとヒントの量が多くなるため、要求したヒントと回答をメモしておくことをお勧めします。

ゲームの終了

次の条件に達した場合は直ちにゲームを終了します。

- 条件A： 5ラウンドが終了した場合
- 条件B： あるプレイヤーの漢獸カードが2枚とも場から奪われた場合
- 条件C： 全てのプレイヤーの守護獣が場から奪われた場合

ゲーム終了後、最後まで見破られなかった秘宝カードおよび漢獸カードは自分が有しているものとみなし、勝者判定を行います。

勝者判定

次の優先度で、ゲームの勝者を決定します。

- (1) 秘宝カードを一番多く有するプレイヤー
- (2) 秘宝カードが同数の場合、漢獸カードを一番多く有するプレイヤー
- (3) 漢獸カードが同数の場合、行動ターンの順番がスタートプレイヤーに近いプレイヤー

秘宝カード：珠



【補足】部首の取り扱いについて

- ◆ 漢字の部首は「偏旁冠脚」（‘へん’や‘つくり’）といった漢字の位置を示す分類ではなく、「康熙字典」（意符・形に基づいた分類）を使用しています。
 (例) ‘海’と‘泉’は「さんずい」「したみず」ではなく、いずれも「水部」という部首に属します。

製造・販売
 Loto & Beyser Games <http://lotobeyser.com/>
 デザイン協力
 ヨツツジエコー <http://yotsutsuji.com/>